

基盤研究(B)：課題研究番号 17H02706

**道徳教育課題に対応する「特別の教科 道徳」を  
要とした道徳教育プログラムの開発に関する研究**

アメリカの学校における道徳教育の現状と課題に関する現地調査研究

研究代表者：押谷 由夫（武庫川女子大学）

◆研究課題名：道徳教育課題に対応する「特別の教科 道徳」を要とした  
道徳教育プログラムの開発に関する研究

◆本研究の目的：アメリカの学校における道徳教育の現状と課題に関する現地調査研究

◆視察の概要

訪問地：アメリカ・ニューヨーク州タリータウン、ヨークタウン及びニューヨーク市

日 時：平成 30 年 9 月 29 日～平成 30 年 10 月 8 日（10 日間）

参加者：押谷由夫（研究代表者）、伴恒信（岡山商科大学教授）、  
小島敏子（前堺市登美丘東小学校校長）

◆2018 年 10 月 1 日

### I－①：Tarrytown School

第 1 日目は、ハドソン川の風光明媚な東岸にある地域、ニューヨーク州・タリータウンの公立学校を訪問した。ここには、タリータウン村や伝説のスリーピー・ホロウ\*（小説や映画で有名）の村などから約 2900 人の子供たちが集まってきており、教育を受けている。



▲Tarrytown の公立学校群入口

\*ニューヨーク市から北へ約 25 マ

イルの、ウェストチェスター郡南部に位置する、民族的、社会経済的に多様な地区である。1997 年に、正式な名称(Sleepy Hollow)となった村である。

この地区の学校は、プリンストン・プランに基づいて編成されており、特定の学年レベルに到達した子供たちは、全員同じ敷地内にある学校に通っている。この学習アプローチを行うことによって、全ての子供たちが一定の学力を保持できると考えられている。ここには、4 つの建物(校舎)に John Paulding(プレ K-1)、Winfield L. Morse(1-2)、Washington Irving Intermediate School(3-5)、Sleepy Hollow Middle School(6-8)、Sleepy Hollow High School(9-12)の 5 つの学校が設置されている(カッコ内は学年を示す)。

先にも述べたように、この学校には様々な地域から子供たちが集まっているため、文化的、人種的、そして民族的に多様な児童・生徒による集団がつけられている。その一例として、子供たちが話している言語に特徴があり、彼らの約 23%が第二言語として英語を学校で学習し、英語学習者の主な母国語はスペイン語であるという。こうした実態を踏まえて、学校では、この多様性を自分たちの地区の強みと捉え、可能な限りそれを最大限に活用する機会と場所を子供たちに提供することを目指している。

また、各学校の児童・生徒には、ニューヨーク州の基準に沿った、厳格で包括的なカリキュラムが与えられており、最終的に彼らが志望する大学やキャリアの課題に向けて、対応できる学習内容が設定されている。こうした取り組みは、授業及び学校に滞在している時間だけではなく、学外においても発達段階に応じたカリキュラムが提供されることになっており、常にカリキュラムの改善および充実の機会が、学校には多く与えられている。

具体的な実践例として、ここの高校生たちはシラキュース大学、サニー・アルバニー、ウェストチェスターコミュニティカレッジなどの大学と連携して 18 の AP コースの提供を受けており、さらに 11 のデュアル登録の機会にも恵まれている。こうした取り組みによって、2017 年度の高校クラスにおいては、94%の卒業率をマークしており、国内でも難関とされる大学に進学する者も多くいるようになったそうである。

そして、この学校では、子供たちの学業成績が高いだけでなく、芸術、陸上競技、社会奉仕などへの参加をすることにより、地区全体で教育経験ができるような場を積極的に提供していることにも特徴がある。恵まれた学習環境によって、子供たちは他人への寛大さと思いやりの気持ちを育みながら、のびのびと生活しているのである。

こうした様々な活動を支えているのが、タリータウンの公立学校のためにつくられた財団であり、これは全ての子供たちの経験を豊かにするための教育支援におおいに役立っている。例えば、Horsemen PTA と Sleepy Hollow Performing Arts Booster は、プログラミング学習のための資金を調達したとされる。また、キッズクラブ、ロータリー、商工会議所、YMCA、JCC、その他多くの地域社会に根ざしたボランティア団体などは、日常的にチャリティ・イベントやボランティア活動を行っている。その活動自体が子供たちに計り知れないほどの人生への良い影響を与えている。

さらに、ここでは保護者や地域の人々が学校での活動を支援し、委員会の採用やさまざまなイベントの計画をたてたり、年間の予算を支援したりするなど、まさに学校と家庭、地域が一体となって子供たちの教育を支援しているところであった。

## I - ② : John Paulding School

この日、2校目に訪問した John Paulding School は、同地区の1年生(プレ K-1)が通う小学校であり、ここの教師は社会科、科学、数学、健康、体育、そして芸術といった様々な専門分野におけるリテラシー学習を取り入れる工夫を行っていた。また、この小学校に通う子供を持つ保護者も、親が参加をするイベントやチャリティなどに積極的に参加するなど、家庭と学校が連携しながら子供たちを支援する体制が整っていた。この学校では、社会の一員となるためのスキル、態度、知識、そして道徳的価値を養うことを重視し、学校コミュニティによって相互の共通理解をはかりながら卓越した教育と健全な学習環境の提供ができるよう、常に新しく斬新なアイデアを模索しているという。

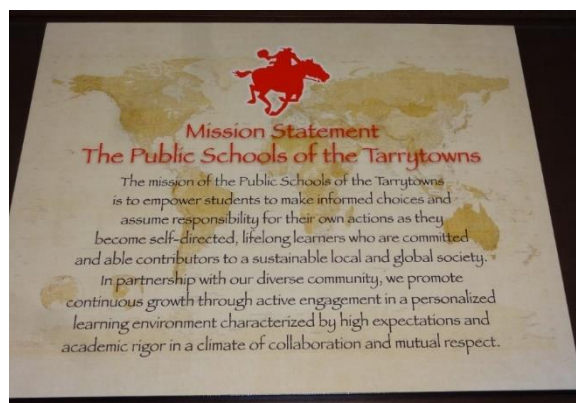
小学校でありながらも、子供たちには幅広い学習分野のカリキュラムや課外活動が提供されており、興味や関心に応じてそれらに参加することができる。また、児童の理解が不十分な点や改善点については、経験豊富なスタッフによる専門的なサービスを通じて、サポートが受けられる仕組みができています。このプログラムは、子供たちの学習意欲や学力を向上させるための挑戦的な取り組みであるとして、周辺地区から高い評価を得ている。



▲John Paulding School



▲Sleepy Hollow middle and high school



▲Sleepy Hollow がこの地区のシンボルである



▲教育委員会での研究協議会の様子①



▲教育委員会での研究協議会の様子②



▲教育委員会での研究協議会の様子③



▲共有グラウンドで運動する子供たち



▲子供たちが積極的に手をあげている(小学校での授業の様子)

### I-③ : Washington Irving School

3校目に訪問したのは、同敷地内にある Irving School で、ここは3～5年生を対象とした小学校である。この学校では、21世紀型のスキルと能力を養うための中核的な学習カリキュラムを通して、子供たちの心身の成長を促す質の高い教育を行うことを目指している。ここでは、アカデミックな学習スキルと知識を身に付けることに力を入れており、大学を卒業した後でも成功し続ける意欲的な学者や、市民の中でもリーダーとして力を発揮できるような人材を育成するために、卒業するまで一人一人に丁寧な指導がなされるという。



▲Washington Irving School の入口



▲Washington Irving School の外観

この学校の特徴として、Irving W.O.R.M.（午前中の読書活動）クラブという時間が設けられており、これは午前7時30分から8時まで、学校内にある図書館で読書をするという月曜日から木曜日の始業前のプログラムが設置されていることがあげられる。これは、10月に始まり4月まで継続して行われているとのことである。

アメリカの多くの地域で、こうした読書活動プログラムが積極的に取り入れられる背景には、子供たちの識字率の低さが大きく関わっている。例えば、本を流暢に読むことができなかつたり、読解力がなく苦しんでいたりするものは、1～3年生の低学年層であることが多い。そのため、このプログラムには、子供たちをサポート



▲現地の先生との研究協議会の様子

するコミュニティのメンバー、スタッフ、卒業生、そして保護者からなるボランティア・メンバーがいる。子供たちはこうしたボランティアの人たちとペアになって、自分のレベルにあわせた本を読み、それからその本の内容についてPCを使ってクイズをしたりしながら確認作業を行う。使用されている書籍およびコンピュータプログラムは、Accelerated Readerを導入している。小学校1年生は、視覚的な単語カードと基本的なフォニックス・スキルを使って学習している。また毎年、プログラム終了時にはボランティアに感謝するためのボランティア朝食会が実施されるなどのイベントも充実している。



▲授業中の様子

## I-④ : YORKTOWN JUSTICE COURT



▲Yorktown Justice Court の建物前にて



▲施設内見学を終えて

4つ目の訪問地は、Yorktown justice court である。ここでは、ヨークタウン周辺地区で発生した刑事事件の裁判を統括しており、保釈をするかどうかの決定をくだしたり、ウエストチェスターカウンティに収める保釈金額を定めたりしている。通常は、逮捕から 24 時間以内にヨークタウンで規定されている必要手続きが行われ、逮捕手続のための弁護士をここで手配することになっている。Yorktown justice court では、逮捕からの諸手続き、裁判までの流れ、実際の裁判などを子供たちが見学できるようになっており、犯罪抑止はもちろんのこと、裁判の仕組みなどを学習する機会を与えている。

ここでは、裁判所で生徒が実際の裁判を模擬体験したりすることを通し、いかに市民としての自覚や責任を学びとり、それを身につけていくかについて話を伺い、協議を行った。

### ◆10月2日

## II-① : Pierre Van Cortlandt Middle School

視察の第2日目は、Pierre Van Cortlandt Middle School (PVC) を訪問した。この学校は、ハドソン川流域のクロトン・オン・ハドソン地域に位置しており、5年生から8年生までの子供たちが通っている。

この学校では、異学年による教育活動を通じて、子供たちの発達段階ニーズを満たすカリキュラムが提供されている。例えば、5年生と6年生では、授業が2人の教師によって行われており、1人は数学と科学、もう1人は人文科学を担当するなどである。また、7年生と8年生では、生徒は数学、科学、英語、社会科と特別教育を専門とする教師のチームによって指導が行われる。さらに、子供たちは5年生から中国語、スペイン語またはフランス語を学びはじめ、学校の Innovation and Design Lab に参加することができる。



通常、8年生は Living Environment というカリキュラムで高校レベルの科学コースを受講するが、代数1を受講することもでき、これにより高校の単位が取得可能となるのである。生徒はまた芸術、一般音楽、体育、家庭と職業、メディアとコミュニケーションそして健康などの様々な授業に参加することができ、合唱、バンド、弦楽器などの音楽分野も学ぶことができるようになっている。また、この学校では、思いやりや寛容な心を養うことを目的としてエモーショナル・トレーニングを積極的に取り入れており、道徳性の発達を促すような工夫を日常的に行っていた。

ここでは、校長先生から子供たちの興味や関心を高めるために、きめ細やかなカリキュラムや授業が提供されていること、授業でどのような具体的な工夫がなされているのかについて詳細な説明を受けることができた。



▲玄関の掲示



▲エモーショナル・トレーニング①(掲示物)



▲エモーショナル・トレーニング②(授業風景)



▲校長先生を囲んで

## II - ② : Carrie E. Tompkins Elementary School

2校目は、Pierre Van Cortlandt Middle School からほど近い場所にある Carrie E. Tompkins Elementary School(CET)を訪れた。この学校でも、一人一人の子供のニーズを

満たすことに重点が置かれており、学校スタッフが丸となって心温まるような教育環境を提供し、常に子供たちが安心して安全に学べるような学校づくりが目指されていた。

この学校のモットーは、「CET は(ある一定の)知識レベルに到達すること」であり、それはまた尊敬、努力、受け入れ、協力、そして誠実さを促進することで達成されると考えられている。そのため、この学校では共通の本を互いに読み合ったり、テーマごとにディスカッションしたり、様々なグループに分かれての活動が取り入れられている。こうした活動を通じて、子供たちに他者への配慮を実践的に学ぶ機会を与えているという。

例えば、この学校で導入している「セカンドステッププログラム」は、全ての子供たちにとって学術的な学びを促し、社会的行動の成果を最大限に発揮できるようにするためのプログラムとして、これまで重要な役割を果たしてきた。このプログラムは、他者への共感を持ち、自己の感情をコントロールし、問題を解決する能力を高めるスキルを子供たちに段階ごとに教えるものである。こうした発達段階や理解度を踏まえた学習方法によって、子供たちに学校での成功体験とつながりを意識させ、さらに安全で尊重される学校風土をつくりあげている。



▲この学校はナショナルブルーリボンスクールオブエクセレンスを受賞している

Carrie E. Tompkins Elementary School は、「ナショナルブルーリボンスクール・オブ・エクセレンス」を受賞しており、この賞は優れた学習環境を提案している学校に贈られるものである。例えば、リーディング・語学や芸術、数学は、子供たちがそれぞれの能力を

伸ばすために、時間を増やして学ぶ拡張ブロック(型の授業)で行われている。また、Reading Workshop モデルは読み書き能力を養うために、数学では州で定められた学習基準を満たすために、Eureka の数学プログラムを導入している。さらに、全ての子供がスペイン語を勉強しており、それらは体育、芸術、音楽、読書の時間と技術にも取り入れられている。

ICT 環境も充実しており、SMART Boards が全ての教室にあり、デスクトップおよびラップトップコンピュータと iPad へのアクセスが可能で、最新ソフトが全てのコンテンツ分野に織り込まれている。こうした学習環境が整っていることから、コーディングとエンジニアリングの経験は、図書館だけでなく教室でも実践できるようになっている。

この学校では、キャリア教育にも力を入れており、校外学習ではアーティストを目指す子供には視覚芸術や舞台芸術について、自然科学に関心のある子供には爬虫類、両生類、哺乳類、鳥類について実際に学べる環境などが整っている。また、クロトンポイントパークやティアタウンレイクリザベーションを訪れ、川の潮汐、風景、野生生物を観察したり、カエデの砂糖漬けについて学んだりするなど、体験学習を重視した学習がなされている。

ランチタイムには、大きなスクリーンがある部屋に移って、子供向けのショートムービーやミュージックビデオをみながら、子供たちは終始なごやかに昼食をとっていた。

クラス授業では、教師が大きな絵本を子供たちの前で読み聞かせをして言葉の学習を行っていたが、中には身を乗り出して見る子供もいた。このように、学習(知識やスキルの習得)にグループ活動を取り入れることで、常に子供たちの道徳性発達を促すことも意識されていることがわかる。



▲ランチタイムの様子



▲授業風景(本を使って読み聞かせを教師が行っている)



▲Carrie E. Tompkins Elementary School の校長先生を囲んで



▲Carrie E. Tompkins Elementary School の校舎の外観

◆10月3日

### III-①：Yorktown Central School District Central Administrative Offices

第3日目は、Yorktown Central School District Central Administrative Offices を訪問した。ここは、いわばヨークタウンセントラル学区の教育委員会にあたる。

ここが運営しているのは、Brookside Elementary School (3)、Mohansic Elementary School (3)、Crompond Elementary School(4-5)、Mildred E. Strang Middle School(6-8)、Yorktown High School の5つの学校である(カッコ内は学年)。

この地区における学校の共通した使命は、子供たちに総合的な学習体験を提供することである。つまり、有能で、思いやりのある市民となるために必要な知識、スキル、価値、態度を子供たちに身につけさせる学習環境を整えることに重点を置いている。この地区も、多様な国や地域から子供が集まっており、個々のグループの可能性を最大限にするために、個人的な責任、成長および発展を尊重することで、相互理解を深めることを目指している。



▲Central Administrative Offices の外観

ここには6つのコアとなる信念が掲げられており、その信念に基づいて学校スタッフ、保護者、地域住民が連携し、子供たちにとって良い学習環境をつくっている。具体的には、「①健康的なライフスタイルの重要性の理解を深め、良い選択をすること、②道徳的良心を奨励すること、③自尊心を高め、他人への敬意を示すこと、④芸術に対する創造性、⑤起業家精神、そして⑥深い感謝の気持ちを育むこと」を意識しながら指導を行っているという。

ここでは、このようなヨークタウン地区における学校の現状や倫理道徳に関する教育の実態や課題について説明を受けた。さらに、それぞれの学校がもつ課題などについて日本の学校における施策との比較を通して、研究協議を行った。



▲Central Administrative Offices での研究協議

### Ⅲ－② : Mildred E. Strang Middle School

この日、2つ目に訪れたのは同地区内にある Mildred E. Strang Middle School である。

訪問した Mildred E. Strang Middle School (MESMS) が目標にしていたのは、子供たちの卓越性の追求、創造的な発見の促進、さらに彼らの心と体、そしてキャラクターの育成を目指す、多様な学習者が集うコミュニティの形成である。この学校の生徒たちは、常に自分の学校や地域社会、そして世界の一員として責任ある行動をとること、社会に貢献するのに必要なスキルと知識の修得を目指しながら自己鍛錬することが目標になっている。

それを実現するために、この学校ではキャラクター・エデュケーションに力を入れており、重要とされる価値について子供たちに考えさせたり、意見を述べさせたりする機会を授業で設け、価値を深める学習を行っている。また、掲示物にも価値を意識づけるような工夫をすることによって、子供たちが相互に価値を共有できるようにしているという。



▲Mildred E. Strang Middle School の校長先生を囲ん

### Ⅲ－③ : Lunch meeting

ここで、我々の案内役を担ってくれた宗教家のシルバー氏の計らいによって、シルバー氏の知人である宗教家が集い、研究協議を兼ねたランチミーティングが行われた。

このミーティングでは、各分野における宗教家が子供たちの教育についてどのような考えをもっているのか、それぞれの団体でどのような取り組みをこれまで行ってきたのかなどについて、共に意見交換をする機会を得ることができた。住んでいる地域や、それぞれの宗教の立場によって教育に対する考え方や方法論の違いはあったものの、子供たちがよりよく生きるために必要な価値を学び、それを深めていくために学校はもちろんのこと、家庭や地域が連携していく仕組みや環境づくりを行っていくことが必要であるとの意見は一致した。これまで訪問してきた学校や教育機関に共通していたのは、様々な国や地域から子供たちが集まっていることであり、そこでは彼らもっている宗教的、文化的な違いを寛容に受け入れた上で、共に暮らしていくことの意義を学ばせていくことが重要である。



▲シルバー氏主催のランチミーティングにて①



▲シルバー氏主催のランチミーティングにて②

### III-④ : The New York Society For Ethical Culture

この日の午後は、The New York Society For Ethical Culture において講演を行い、さらに研究協議を行った。

#### 【Ethical NYC について】

ニューヨーク倫理文化協会（NYSEC / Ethical NYC）は、1876年に Felix Adler 博士によって設立された倫理活動の基盤となる伝統的な組織団体である。この団体は、これまでの歴史を通じて、市民社会の促進に長期的な効果をもたらしてきた重要なコミュニティ制度の創設を支援してきた。倫理文化は、神学ではなく倫理を中心とした宗教であり、その使命は、人類と自然への尊重を奨励し、より良い世界を創造することにある。

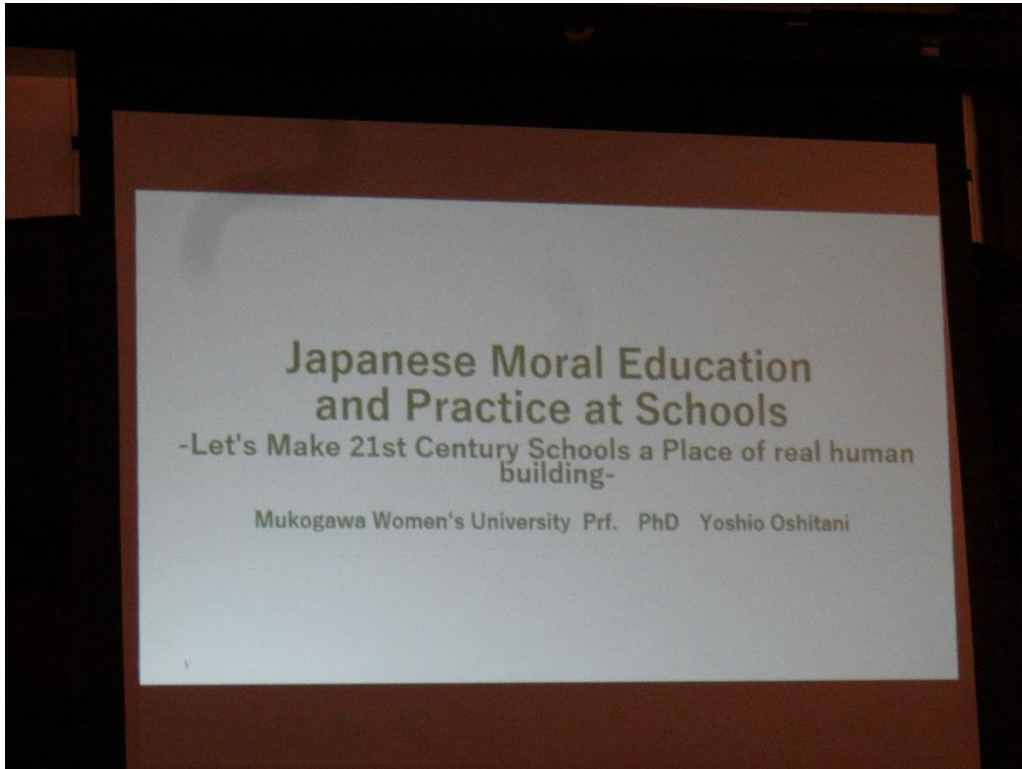
NYC における組織の会員は、他者との関係や社会的正義や環境保護に関わる活動において、個人的で倫理的な発展に尽力している。全ての人々が固有の価値と尊厳、成長し変化する可能性、倫理的成長を目指す責任、そしてより良い世界を創造する責任を担っている。

NYC の講演では、日本の学校教育や子供たちの現状について、また道徳教育の最近の動向などについて発表を行い、聴衆者から多くの関心を集めることができた。また、アメリカや日本における教育内容に共通する点も多く、望ましい子供の育成についてどのような具体的方策が必要となるのか、各国でも大きな課題になっていることが示された。ここでは、よりグローバルな視点にたった教育の在り方について検討し、相互に交流していくことの重要性を再認識できた。



▲NYC の講演会場にて





▲NYC における講演の内容



▲NYC における講演の様子

◆10月4日

#### IV-① : Yorktown Presbyterian Preschool

第4日目の訪問校は、Yorktown Presbyterian Preschool である。ここでは、主に授業参観をし、さらに学校の先生方との研究協議を行った。

Yorktown Presbyterian Preschool は、グラフトン地区にある半日の幼児教育プログラムを行っている学校である。ここには、Seaford、Dandy、Tabb、Dare を含む周囲のコミュニティから Newport News に至るまでの地域に住む、2.5歳から5歳までの子供たちに教育を行っている。この学校は、ヨークミンスター長老教会と提携しており、ミッションスクールの位置づけがなされている。したがって、学習というよりは、遊び中心のカリキュラムを導入しながら、子供たちに知的、社会的、そして身体的な成長の機会を提供している(アメリカの学校に多くみられるデイケアプログラムは、ここでは導入されていない)。あらゆる宗教、人種、民族的背景を持つ全ての子供たちを受け入れ、尊重することが学校のモットーとされる。



▲Yorktown Presbyterian Preschool の入口

学校では、次のようなことに重点を置きながら、子供たちの学習環境を整えることを目指している。

##### ①探究：

この学校では、幼年期における好奇心と本物の経験をすることによって、生涯にわたる学習への探究心を促進すると考えられている。さまざまな遊びの機会を与え、豊かな環境を子供たちに提供することで、子供たちが既存の知識を活かす能力を高めることができると捉えられている。また、教師が学習のプロセスに焦点をあてることによって、子供たちの創造性、学習意欲が高まることへの期待がもたれている。

##### ②あたたかい教育：

安全な環境の中で、子供たちが教師の養育あるいは指導を受けた場合、子供たちは適切な選択をする可能性が高いと考えられている。そのため、子供たちのちょっとした変化に

敏感に気づけるように、授業は教員 2 名で指導を行う少人数制をとっており、子供たちへの愛情あふれる教育が目指されている。こうしたあたたかみのある教育を行うことにより、学習体験の優れた基盤として、将来もその学習が役立てるように期待がもたれている。特に、この少人数授業では子供の感情を検証することが彼らの自尊心を高め、自分自身や他の人への尊敬を促すと考えられており、感情をより客観的に捉えることができるように、言葉による指導にも力を入れているそうである。



▲体育館で元気に遊ぶ子供たちの様子

### ③コミュニティ：

ここでは、学校が地域と連携することによって、子供とその家族にとって重要な接触点となるコミュニティになると考えている。その例として、学校では子供たちに周囲のことや周囲の人の世話をすることの価値を教えることによって、子供たちが自分たちの資源をしっかりと管理し、周囲の人たちに対する共感がうまれると考えている。そのためにも、学校は、教師と保護者の間の開かれたコミュニケーションが、子供の望ましい成長のために不可欠であると考えている。

### ④教会は心の拠り所：

先述したように、この学校はミッションスクールである。したがって、ここではそれぞれの子供が神に愛されており、価値と尊厳を持って生まれてきたと考えられている。こうした理念を基盤として、毎週開催されるミサや教会イベントを通じて、子供たちは彼らの周りの世界に責任と共感を深めていくことが期待されている。



▲授業中の様子

#### IV-②：ボーイスカウト

次に訪れたのは、ヨークタウンの子供たちの社会での教育活動として重要な役割を担っているボーイスカウトの活動場所である。ここでは、ボーイスカウトにおける実際の活動を観察するとともに、組織のリーダーとなっている生徒たちと話し合い、活動の実際と効果についてディスカッションを行った。

この地域では、もともと少年・少女の生活を豊かにし、日常生活のあらゆる場面においてポジティブな影響を与える活動を学べるものとして、ボーイスカウトへの加入が盛んに行われているようである。また、保護者



▲ボーイスカウトのメンバーたちと共に

も自分の子供をボーイスカウトに参加させることによって、子供の成長を促すよい契機を与えるだけでなく、その活動を支える重要な役割を果たしていると評価される。つまり、このボーイスカウトは、決して子供だけの活動で終わらず、子供と保護者が協力し合い、地域での役割を共に果たしていくというのが特徴にある。

ボーイスカウト・プログラムは、スカウト宣誓やスカウト法に含まれる価値観に基づき、安全で楽しい地域社会への奉仕プログラム、指導力育成、および野外アドベンチャーを青少年に提供することによって、アメリカのボーイスカウトとしての使命を果たすことを目標としている。また、組織ではパトロールの方法を実践的に学び、軍隊のコーチをアドバ



▲ボーイスカウトの表彰式の様子

イザーとして招くなどして、地域保全の方法について段階を踏まえて学習する。こうしたボーイスカウトの日々の業績を評価し、表彰するイベントが毎年開催されており、この日はその表彰式を見学することができた。

◆10月5日

### V-① : Hudson Link (For Higher Education in Prison)

5日目は、Hudson Link を訪問した。ここでは、倫理道徳的側面からの子供たちに行っているボランティア活動や、学校訪問しての活動などをうかがい研究協議を行った。

1998年に設立された刑務所高等教育機関である Hudson Link は、(何らかの犯罪をおこして)監獄に入っていた人たちの監獄での生活スキルや再入学を支援し、彼らの生活、家族、地域社会に良い影響を与えるプログラムを実施するところである。

この教育施設を運営していくには、一人を収容するのに年間6万ドルの費用、及び年間授業料として5千ドルの費用が必要とされる。しかし、この導入によってニューヨーク州では納税者の負担を年間21百万ドル以上節約することができたとされる。このことは、Hudson Link が全国の再犯率67%以上と比較して2%以下(3年以内だと4%未満)という驚くべき再犯率であることが大きく関わっている



▲Hudson Link の取り組みは高い評価を受けている

ると考えられる。つまり、このことは教育支援にお金をかけた方が刑務所に入監させるよりはるかに費用効果が高いことを証明している。また、Hudson Link の卒業生はロールモデルとして彼らの家族やコミュニティのもとに復帰し、釈放後85%の人が3か月以内に社会福祉分野などで雇用されるとのことであった。

#### < Hudson Link の歴史 >

Hudson Link は、この周辺地域から高い評価を受けている。では、Hudson Link はどのようにして誕生したのか、その経緯について簡単にふれてみたい。

1994年以前、米国の刑務所内には約350以上の大学プログラムがあったといわれている。しかし、1994年、議会では収監された人々に対するプログラムの、ほぼ全ての資金を提供していた助成金の廃止を決定した。結果として、全国の8つを除く全ての刑務所内における大学プログラムが閉鎖されたのである。そうした中で、1998年に教育が生活を変え、再犯を減らし、コミュニティに波及効果をもたらすという根拠に基づいて、Hudson Link は設立された。ここは、大学の学位を授与するために刑務所内のプログラムを付与す

る高等教育機関であり、また働く人々も以前にここで収監された経験をもつ人々によって運営される唯一の非営利団体なのである。したがって、このスタッフは、以前に Hudson Link 収容されていた男女の 50%以上で構成されており、実際に我々を案内してくれたスタッフもその一人であった。つまり、彼らもまた、自分たちと同様の境遇にいる人々に対して二度目のチャンスを与える仕事に就くことによって、新しい人生を切り拓いているのである。

#### < Hudson Link における学び >

刑務所内にある Hudson Link では、収監されている男女に対して、大学教育、ライフスキル、各学校への再入学支援などのサー

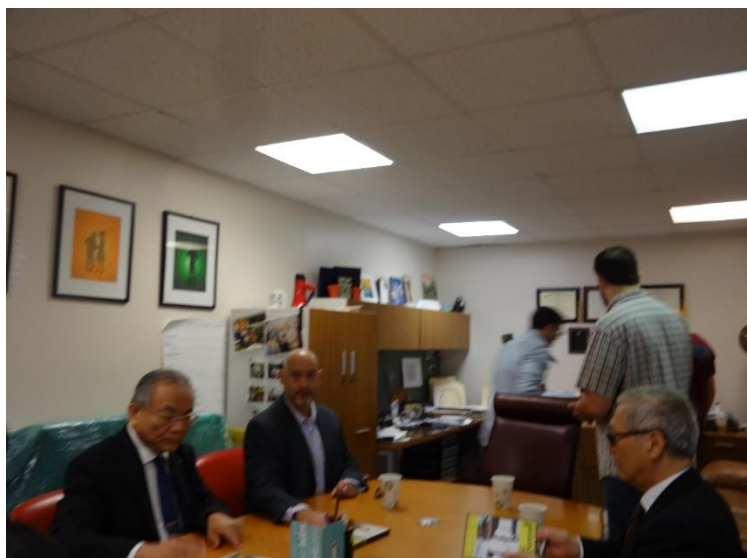
ビスを提供し、彼らが自分の生活、家族、そして地域社会に対して良い影響を与えられるようにサポートを行っている。具体的には、ニューヨーク州にある 5 つの矯正施設において収監されている男女に対し、中等教育以後の雇用、コミュニティの再生、凝集性、互恵性などの内容について学習させる機会を提供している。

Hudson Link の総合的なプログラム構造は、再犯を減らし、彼らの家族とコミュニティを再構築するために、卒業生に対しても様々なサポートを行っている。このパイプラインモデルは、学生が収容されてから移行期を経て、再出発するまでのサービスを提供している。

ここでは、州認定を受けているニューヨーク州立大学と提携することによって、費用対効果の高い、質の高い学部教育を提供することができるようになっているとのことだった。



▲スタッフの 50%以上が収監されていた経験をもつ



▲Hudson Link 内での話し合いの様子

## V-② : Garden of HOPE

Hudson Link を訪問した後は、案内役のシルバーさんが中心になって運営している共同庭園(Garden of HOPE)を訪れた。ここでは、広大な土地をそれぞれ一定の区画に整備し、そのエリアを個人またはグループなどに一定期間貸し出している。土地のオーナーは、そこで好きな野菜や果物を植えたりすることができ、それを自分で調理して食べたり、個人ショップでハーブや野菜のクッキーやスープとして販売しているところもあるようだ。



▲Garden of HOPE の敷地内にて

この地区に住む子供たちは、幼い頃から自分の手で植物を育てることが推奨されている。それは、自分の責任で植物を育てることによって、様々な体験ができると考えられているからである。例えば、水やり一つにしても自分が行わなければ枯れてしまうこと、水や肥料をあげ過ぎても根腐れしてしまうことなど、様々な知識やスキルを、植物を育てることを通して学ぶのである。また、そこからのちのあるものに対する思いやりの気持ちや、心配りなどについて深く考えるきっかけづくりになることも期待されている。



▲この区画の隣にも広大な庭(敷地)が広がっている

Garden of HOPE では、大人だけでなく子供たちが交流できる場所づくりを目指して、定期的にイベントを開いたり、ワークショップを行ったりすることで、ここに関わる人々の関係性を深める役割も果たしている。



▲この日も近隣の小学生たちが庭園見学に訪れていた

### V-③ : Mildred E. Strang Middle School

この日は、3 日目に訪問した Mildred E. Strang Middle School に再訪し、これまでの学校視察の内容や協議内容を総括することになった。ここでは、この周辺地区に住んでいる子供たちや学校現場の実際をみることによって、どのような課題がみえてきたのかを焦点化することを試みた。

プレスクール、エレメンタリースクール、ミドルスクールなど、どの学校においても共通しているのは子供たちのニーズや発達段階を踏まえた上で、教員をはじめとする学校スタッフが配置されており、それぞれの責務を果たしていたことであった。

また、学校だけでなく子供は地域全体で、みんなで育てていくものである、という共通理解が浸透しているため、子供たちの保護者はもちろんのこと、地域の人々も学校のイベントやチャリティ、コミュニティ・サービスに積極的に関わっている点が際立っていた。その一方で、特に小さい子供たちのニーズが多様化しているため、学校スタッフだけでは十分にケアしきれないこと、さらに専門スタッフ(心理カウンセラーや学校医・ナースなどの医療従事者など)を予算内で確保していくことは、まだまだ課題がある。



▲Mildred E. Strang Middle School への再訪



▲Mildred E. Strang Middle School の先生方との研究協議会にて



◆10月6日

## VI：テレビ会議

最終日は、滞在しているホテル内にテレビ会議用のシステムを導入して、ニューヨークの教員組合の指導者とテレビ会議を行った。ここでは、子供たちの現状と学校教育の実態及び課題、倫理道德教育の実際と課題について話し合い、課題解決に向けて今後、どのような施策が必要となってくるかについて意見交換を行った。



▲TV会議の様子①

このTV会議では、日本が現在、学校教育に取り入れているアクティブラーニングや、学校・家庭・地域を連携した取り組みなどが、だいぶ前からアメリカでは一般的に行われていること、さらに少人数教育が定着しており子供のニーズに合わせたきめ細かい指導が行われていることなどに関心が集まった。



▲TV会議の様子②

日本でも、自分自身の思いや考えを子供たちに積極的に発言させたり、書かせたりするなど、自己表現の仕方について様々な取り組みや工夫がなされているが、アメリカの教育からも学べる内容は多いと考える。さらに、キャラクター・エデュケーションを積極的に活用することによって、子供の道徳的価値の広がり、深まりを常に意識していく学校づくりは、日本が目指す学校教育において参考になるところが多かった。一方で、州が定める知識やスキルを習得するための学習プログラムや、子供のキャリア発達を促すための柔軟な選択科目の設定など、非常に多くの学習機会が与えられているものの、それらを管理・運営していくためには教員への負担がどうしても大きくなる。こうした課題を丁寧に解決していくことが重要になってくる。

参考文献・参考資料

- Public Schools of the Tarrytowns HP : <https://www.tufsd.org/Page/9>
- Yorktown Justice Court HP : <https://www.westchester-criminal-lawyer.com/yorktown-justice-court>
- Carrie E. Tompkins Elementary School HP:  
[https://www.chufsd.org/schools/carrie\\_e\\_tompkins\\_es](https://www.chufsd.org/schools/carrie_e_tompkins_es)
- The New York Society For Ethical Culture HP: <https://www.nysec.org/>
- Yorktown Presbyterian Preschool HP:  
<https://fpcyorktown.org/one-another/education-spiritual-growth/ypp/>
- [troop173-yorktown.org/](http://troop173-yorktown.org/)